

# あけぼの杉

初代同窓会会長 藤田啓介博士筆

## 藤田学園同窓会

住 所 豊明市沓掛町田楽ヶ窪  
1 番地 98  
発行人 藤田学園同窓会  
発行日 令和 6 年 12 月 25 日



藤田医科大学病院 ドクターヘリ



## 目次

P. 2	藤田学園同窓会会長ご挨拶	P. 15	4 月： 2024年度入学式
P. 3	学校法人藤田学園理事長ご挨拶		2024年度 入学記念演奏会・講演会
P. 4	藤田医科大学学長ご挨拶	P. 16	5 月： 看護の日ナーシングフェスティバル
P. 5	藤田医科大学病院病院長ご挨拶		藤田医科大学病院
P. 6	学園の 1 年		七栗記念病院
	9 月： 先端医療研究センター		岡崎医療センター
	グランドオープン	P. 17	7 月： 能登半島地震における医療支援活動および
P. 7～8	10 月： フジタEXPO2023		避難所運営支援「感謝の集い」を実施
P. 9	11 月： 大学11号館がリニューアル！	P. 18	8 月： OPEN CAMPUS 2024
	12 月： 上海交通大学医学院リハビリ研究院と	P. 19～20	恩師からのお便り
	本学保健衛生学部がMOUを締結	P. 21	同窓会開催の報告
P. 10～13	1 月： その時、いちばん動ける藤田学園へ	P. 22	2024藤田学園ホームカミングデー
	能登半島地震支援活動		卒後周年記念表彰者
P. 14	3 月： 2023年度 卒業証書・学位記授与式	P. 23	同窓会からのお知らせ
	2024年3月国家試験結果	P. 24	2025年度入学試験スケジュール



## 2024藤田学園ホームカミングデー 開催報告

藤田学園同窓会 会長  
松山 裕宇

卒業生の皆様には、如何お過ごしでしょうか。

さて、地域医療の現場では、令和6年6月からの診療報酬改定で、大変なご苦勞をしておられることと拝察申し上げます。

一方、藤田医科大学病院は、テレビドラマ「ブラックペアン シーズン2」のオープニング映像に大学病院新棟が映し出され、NHKではサンドイッチマンの「病院ラジオ『愛知県大学病院編』」で、国内最大規模の病床数を持つ病院として放映されるなど、卒業生として誇らしい話題にあふれております。

私共が携わる地域医療でも、患者様からは「藤田に紹介してほしい」「藤田に紹介してもらえれば安心です」というお言葉を頂き、嬉しく思いながら日々の診療に当たっています。ただ「最近、外来診療が忙しそう、なかなか目を見て話してもらえない」などのお話を聞く機会も増えて参りました。やはり、話題豊富な大学病院、大学報道の陰で、現場の皆様は大変な想いで日々の診療についておられるのではないのでしょうか。

私も日々の診療の中、患者様を少しでもお待たせしないようにと焦る気持ちから、つい目を合わせずに診察を終わろうとしてしまうこともあります。それでも「われら弱き人々のために無限の同情心持て、片時も自己に驕ることなく医を行わん」という病院理念を思い出し、

患者様の顔を拝見し、目を見つめて、正面から対峙しながら診療に携わろうと氣力を振り絞る日々であります。

さて、今年も2024年10月26日（土）に、2024藤田学園ホームカミングデー（HCD）が、ANAホテルグランコート名古屋で開催されました。

午前中には、フジタEXPO2024も同時開催され、80名弱の方に学園見学して頂きました。卒業生の皆様には懐かしく、そして活氣にあふれた新しい学園を目にさせて頂けたことと思います。そして、懇親会では、卒後周年記念表彰対象の1974年卒：4名、1984年卒：45名、1994年卒：83名を含む、約350名の卒業生の皆様にご参加いただきました。お忙しい中、お集まり頂きましたこと、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

今回は、壇上での記念表彰式に続いて、卒後周年グループ毎の記念写真撮影の機会を設けさせて頂きましたので、思い出に残る1枚が撮影できたと思います。来年も一人でも多くの卒業生の皆様にお集まりいただけるよう、藤田のおもてなしを提供できる体制を敷いてまいります。

なお、来年は故藤田啓介総長の生誕100周年になります。卒業生の皆様と一緒に祝いをして、改めて心をつづにする機会にしたいと考えております。お力添えよろしくお願い申し上げます。



2024藤田学園ホームカミングデー



2024HCD湯澤学長による乾杯





## 理事長を拝命して6年になりました

学校法人藤田学園 理事長  
星長 清隆

藤田学園同窓会員の皆様、お変わりなくご活躍のことと存じます。藤田学園理事長を2018年10月に拝命してから早や6年が経ちました。この間、藤田学園は順調に発展しております。ご安心ください。

まず、同窓会の皆様へのご報告です。本年10月19日（土）に京王プラザホテル新宿にて開催された藤医会東京支部第4回総会に理事長として初めて出席させて頂きました。かつて私が講座教授であった泌尿器科出身者を含め、医学部ご出身で東京、神奈川や福島など関東・東北地方で活躍しておられる1回生から31回生までの37名の医学部を卒業された先生方が暖かくお迎え下さいました。私からも大学の近況を報告差し上げたり、昔話を交わしたりと大変充実した時間を過ごすことができました。翌朝より名古屋で臓器移植関連の会議が控えていたため、宴の途中で退席せざるを得なかった事は心残りでしたが、これからは東京のみならず、大阪や九州での同窓会にも出来るだけ参加させて頂きたいと思っております。

また、1週間後の10月26日（土）には、金山のANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋にて、ホームカミングデーが開催され、321名の同窓の方々が集いました。例年通り、卒後30年、40年、50年目の各学部や専門学校卒業生の皆さんに私と松山同窓会長から感謝状と記念品をお渡ししました。昨年は、香港科技大学や上海の復旦大学とのMOU締結に向けての準備会議と重なり、残念ながら出席が叶いませんでした。今年は久しぶりに多くの先生方と有意義なお話を交わすことが出来ました。懇親会に先立ち、学園の近況を報告いたしました。ここでは建物のお話に絞って述べさせていただきます。

豊明地区の建物群は2011年に20年後の藤田学園として描いた将来構想図に近いものが約10年で出来上がりました。南海トラフ地震に備えて全ての建物を早急に耐

震化あるいは免震化する必要があったためです。2015年5月に大学病院A棟（13階）、2019年1月にB棟（8階）を竣工させ、開院時に建てられた大学病院の1号棟、2号棟は一部を残して解体し、跡地は芝生張りの緑地として患者さんや職員の憩いの場になりました。また、2020年4月に岡崎市に400床の藤田医科大学岡崎医療センターを開院しましたが、1～2年で病床はほぼ満床状態となり、年間8,000台の救急車を受け入れるまでになりました。また、ばんたね病院では2016年にB棟、2023年にA棟を新築し、駐車場の増築も進めた結果、最近では連日満床となりました。職員の強い要望もあり、5年以内に旧病棟を解体して地震に強い新棟に建て替える予定です。さらに、昨年10月に東京都大田区羽田空港1丁目（東京モノレールならびに京浜急行の天空橋駅の直上に開発されたHANEDA INNOVATION CITY Zone A）に藤田医科大学東京先端医療研究センターを開設しました。ここは主に航空機で羽田空港に到着する国内外の富裕層を対象に自由診療で最先端医療を実践する施設となっています。さらに、三重県の七栗地区は近い将来、民間資本の協力も得て周辺環境を美化し、良質の温泉付きの高齢者施設と健診付き高級宿泊施設を併設し、現在の七栗記念病院の機能を大幅に活性化する構想です。

以上、学園の近況の一部をご報告しましたが、研究部門を含め藤田医科大学は大きく発展し続けており、これからも広報誌やマスコミ報道を通して、前向きな情報をお伝えできる機会は少なくないと思います。私は5代目理事長として故藤田啓介総長の夢を少しでも実現出来るよう、粉骨砕身、尽力する覚悟ですので、今後とも卒業生の皆様の暖かいご支援をお願い申し上げます。



藤医会東京支部会の懇親会にて



2024藤田学園HCD 卒後周年記念表彰式にて



## 藤田医科大学の発展と社会貢献の成果

藤田医科大学 学長  
湯澤 由紀夫

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学への多大なるご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。2024年は藤田医科大学にとって実り多く、飛躍の一年となりました。本学は教育・研究・臨床のあらゆる分野で発展を遂げ、社会貢献の取り組みを推進して参りました。

教育では、全学部で国家試験合格率が高水準を維持し、医学部は国公立医科大学の中で全国12位という成果を収めました。大学院では「保健学研究科」が「医療科学研究科」と「保健学研究科」に再編され、「医学研究科」を合わせた3研究科体制としてさらなる教育の充実を図りました。2023年に日本で初めて設立された「病院経営学・管理学 専門職大学院」の1期生が9月に博士号を取得し、健全な病院経営を担う高度専門職の育成に成果を上げています。

研究では、本学が全国で12番目（中部圏で2番目、私立大学で2番目、医療系総合大学としては1番目）に文部科学省の「橋渡し研究支援機関」に認定され、また「高度医療人材養成拠点形成事業」にも採択されました。これらは本学の研究及び臨床水準が国において高く評価された証であり、医学・医療分野の研究推進において名誉ある成果といえます。今後、本学は大学としての地位がさらに強化され、地域医療、全国の医療、そして国際的な医療課題へ大きく貢献していくものと期待しています。

2月には愛知県内2機目となるドクターヘリの運航を開始し、地域医療の充実と迅速な救命活動に貢献する新たな体制を整えました。1月の能登半島地震では防災士資格を持つ学生や教職員が現地支援活動に尽力し、災害対応における本学の取り組みが地域社会から高い評価を受けました。4月には「メトロニック サージカルエクスペリエンスセンター」が新設され、「ダビンチ低侵襲手術トレーニングセンター」、「カダバーサージカルト

レーニング施設」、「メディカロイド インテリジェンス ラボラトリー 名古屋」とともに次世代の外科医育成を推進しています。

国際的な取り組みとしては5月にタイ保健省、華中科技大学、8月にフィリピン大学、清華大学、9月に米国ネブラスカ大学とMOUを締結、教育・研究交流を深化させました。さらに夏には香港科技大学とのMOU締結を記念し、両大学の学生が医療現場の課題解決に挑む起業家育成プログラム「Boot Camp」を実施。この活動は日本初となる医療をテーマとした国際的アントレプレナー教育として成功を収めました。11月には国際的な学術イベントとして「Fujita International Symposium on Cancer Science 2024」と「Fujita University Summit 2024」を開催し、前者では国内外で活躍するトップサイエンティストを迎え、造血器腫瘍に関する最新の研究成果や治療法の進展について講演・議論し、後者ではシンガポール国立大学やマラヤ大学などのアジアトップレベルの大学リーダーを迎え、アントレプレナー教育やAIの医学応用についての講演や議論を通じて、現代社会の課題解決に向けた知見を共有しました。

また、SDG3「すべての人に健康と福祉を」分野にて、世界4位、日本1位を獲得したことも大変喜ばしいニュースです。この評価は、持続可能な社会の実現に向けた大学の社会貢献の取り組みが国内外で認められた証といえます。

こうした成果は、同窓会の皆様の日頃からのご支援があってこそ成し遂げられたものと深く感謝しております。これからも、藤田医科大学はさらなる発展を目指し、努力を続けて参ります。引き続き温かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



Fujita University Summit 2024 大村知事とスピーカーの先生方



BOOTCAMP参加学生





## 藤田医科大学病院の近況と将来展望

藤田医科大学病院 病院長  
白木 良一

同窓会の皆様には日頃より藤田医科大学病院に対し、多大なるご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は特定機能病院、高度救命救急センター、基幹災害拠点病院に指定されていますが、救急医療体制をさらに強化し、医療救護活動の要となる役割を果たすべく、今年2月よりドクターヘリの運航を開始しました。また、大規模災害時にも通常医療を維持できるよう、太陽光発電や水資源等のインフラ整備を含めた“病院強靱化”にも取り組んでいます。元日に発生した能登半島地震においては、翌日からDMATを派遣するとともに、正式運用前ながら石川県からの要請を受け、ドクターヘリによる医療支援を実施しました。その後もドクターチームや教職員、学生が現地入りし、被災者に寄り添う支援を続けてきました。新型コロナウイルス感染症対応においても、「チームFUJITA」の結束力が発揮されましたが、今回の被災地支援においても、団結力やスピード力、柔軟な対応力を発揮し、「チームFUJITA」一丸となって活動にあたりました。

がん治療においては、今年4月に、医療機器メーカーのメドトロニック社と産学連携し、外科領域の術式を包括的に学べるトレーニング施設「メドトロニック サージカル エクスペリエンスセンター」を開設しました。より多くの医療従事者へ同社の手術支援ロボット「Hugo」の他、「ダビンチ」、「hinotori」のトレーニングの機会を提供することで、新たな低侵襲手術の開発や外科医の育成、技術向上に貢献することを目指しています。

5月には、国内初となる「セラノスティクスセンター」が完成し、稼働を開始しました。これは医療用のサイクロトロン（粒子加速器）を用いた核種（放射性同位元素）製造から、放射性医薬品による診断・治療・開発を一元化したもので、がんだけでなく認知症の診療にも大きく役立ちます。他にも最新の高精度放射線治療装置の導入

も予定されており、アジア屈指のがん診療拠点となるべく様々な整備を進めています。

12月には、2018年に取得した国際的な医療機能評価であるJCI認証の2回目の認証更新を迎えます。安全で質の高い医療を継続的に実践し、更新審査に向けての準備も進めています。

また、がんゲノム医療の普及に対応すべく、昨年9月にはがんゲノム診療科を開設しましたが、今年6月にはがんゲノム医療連携病院（エキスパートパネル実施可能施設）に認定されました。当院では血液や唾液、尿を用いたリキッドバイオプシーや、がん遺伝子パネル検査を実施していますが、多くのがんゲノム情報をデータベース化し、院内で迅速にゲノム解析できる体制を整備することにより、個別化医療のさらなる進展を目指しています。

また、高度医療情報ネットワークを用いた本学5病院間での情報共有や地域医療連携システムの構築など、より高度な医療DX化や、搬送ロボットの導入、AI診断の確立、遠隔手術の実現等、スマートホスピタル構想の推進により、医療の質と患者さんの利便性を向上させるとともに、広域の病診連携の拡充、医療現場における職員の作業軽減、感染症対策など、社会の課題解決に寄与したいと考えています。

教育面においては、大学病院として高い臨床力と国際発信力を持ち、“藤田スピリット”を継承する医療人の育成にも継続的に努めています。今後も「チームFUJITA」一丸となり、藤田ならではの“やさしさの医療”と、安全で質の高い医療を提供できる人材を養成していくことで、地域社会および医学・医療の進歩に貢献してまいります。

同窓会の皆様におかれましては、何卒引き続きのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



病院A棟屋上のドクターヘリ



セラノスティクスセンターの外観

2023年 9月

# FMiC 002便 先端医療研究センター グランドオープン



次世代医療・研究の拠点として東京羽田に開設準備を進めてきた「藤田医科大学東京 先端医療研究センター」が10月2日、グランドオープンしました。開所前の9月30日には開所式・祝賀会および内覧会が行われ、産官学各界から約120名の方にご列席いただきました。

## 開所式・祝賀会

開所式では、菅義偉元内閣総理大臣をはじめ、萩生田光一自由民主党政務調査会長、キヤノン株式会社の御手洗富士夫代表取締役会長兼社長 CEOら各界をけん引するリーダーの皆さまから、あたたかいご祝辞をいただきました。主催者挨拶に立った星長清隆理事長は「皆さまにご協力していただき、国内外から高く評価してもらえる施設が完成した。再生医療やがんゲノムといった身体への負担が少ない医療や、長期的健康を意識した活動長寿プログラムなどの提供を通じて、日本の高品質な医療を全世界に向けて発信していきたい」と力強く宣言。ご列席者へ末永い協力と支援をお願いしました。

華々しいテープカットの後には、祝賀会が行われ、門出を盛大に祝いました。



テープカットで記念すべき第1歩がスタート



祝賀会で挨拶する湯澤由紀夫学長



エントランス



産学共同エリア



精密健診センター



アイセンター



# フジタEXPO 2023

昨年からはじまった知の祭典「フジタEXPO」が今年も10月26～29日、豊明校地で行われました。藤田医科大学 医学会および研究推進本部総合医科学研究部門の5つの研究センター\*による学術発表や、外部から講師を招いての特別講演、本学の最新研究を紹介する市民公開講座を開催。加えて学園祭やオープンキャンパスも同時開催し、教職員から学生、患者さん、地域の皆さんまで、知的交流の輪が広がった4日間となりました。

5つの研究センター※：医科学研究センター/精神・神経病態解明センター/がん医療研究センター/感染症研究センター/国際再生医療センター



## 学術発表/26～28日

### 第55回医学会学術大会／総合医科学研究部門研究センター成果発表会

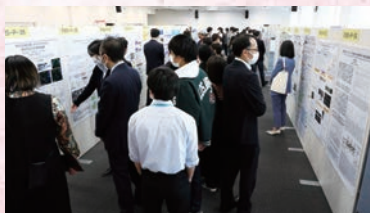
会場となった大学2号館6階では、医学会と総合医科学研究部門の各研究センター併せて51名による研究成果の口頭発表と、医学会から81演題、各研究センターから39演題のポスター発表が行われました。ポスターの前では、基礎系・臨床系・橋渡し系の研究者らが分野を越えてディスカッションする姿や、学生に解説する場面なども見られ、本学の研究に対する意識の高さや意欲がうかがわれました。また、学術発表の最終日には優れた演題に贈られる奨励賞や優秀演題賞の表彰式および受賞講演がフジタホール500で行われ、受賞者らが自身の研究成果を力強くプレゼンテーションしました。



岩田伸生医学部長の  
あいさつで医学会が開幕



留学生たちも興味深そうに説明を聞いていました



大勢が来場したポスター発表の会場



優秀演題の発表者に表彰状が贈られました



## 特別講演/26・27日

特別講演には、大阪大学放射線科学基盤機構放射線科学部門長で同大フォアフロント研究センター医理核連携教育研究プロジェクト代表の深瀬浩一教授と、慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室の本田賢也教授にご登壇いただきました。深瀬教授は「大阪大学におけるα線核医学治療研究」と題し、アスタチン-211の治療有効性や同大が進める前立腺特異的膜抗原(PSMA)を標的としたα線治療薬の開発状況などについて解説。また腸内細菌叢研究の世界的権威である本田教授は、多臓器と腸内細菌叢の相互作用について、「多次元データベースによるデータの蓄積とともに、AIや量子計算を組み合わせたアルゴリズムの開発が重要」と指摘しました。



慶應義塾大学・本田賢也教授



大阪大学・深瀬浩一教授



2階席まで埋まるほど盛況でした





## 市民公開講座/28日

市民公開講座では、「さらに飛躍するFUJITA」をテーマに、本学の研究をけん引する3名の教授が登場。会場となったフジタホール500には、豊明市や名古屋市などから約80名の方が聴講に訪れました。湯澤由紀夫学長を座長に各教授が順次レクチャーし、眼科における再生医療や、テクノロジーを活用したリハビリテーション、手術支援ロボットによる遠隔手術など、自ら推進中の次世代を見据えた医療について分かりやすく解説しました。



榛村 重人 教授



大高 洋平 教授



宇山 一朗 教授

### 「病を細胞で治すという選択肢 進化する再生医療」

臨床再生医学  
先端医療研究センター 副センター長、  
羽田クリニック 院長  
榛村 重人 教授

### 「テクノロジーが拓く 未来のリハビリテーション」

リハビリテーション医学I  
ロボティクスマートホーム・  
活動支援機器研究実証センター センター長  
大高 洋平 教授

### 「国産手術支援ロボット“hinotori” による手術の現状と近未来」

先端ロボット・内視鏡手術学  
サージカルトレーニングセンター センター長  
宇山 一朗 教授



## オープンキャンパス/28日

今回のオープンキャンパスは、医療の仕事を知ってもらうことを目的に、通常より低学年の高校1・2年生と中学生向けのコンテンツを用意して実施。医学部 約140名、医療科学部・保健衛生学部 計約300名が参加しました。医学部では、クイズを解きながらめぐる医学標本展示や臨床の基本的な手技をトレーニングするスキルスラボでのバイタルの測定などに挑戦。医療科学部・保健衛生学部では、赤ちゃんのミルクづくり体験や手術着を着ての臨床工学技士体験などもあり、楽しみながら医療の仕事を感じていただきました。学食では、手羽先やエビフライなどの名古屋めしを用意。こちらも参加者に大変好評でした。



シミュレータを使った気管挿管を体験



骨格の標本に興味深そうに見る参加者たち



学生食堂では名古屋めしを提供しました



## 学園祭/28・29日(前夜祭27日)



迫力のストリートダンス

COVID-19が5類感染症に移行したことから、今年は「Revolution」をテーマに規模を拡大して実施。体内組織についての学術展示や一次救命処置の講座など医療系大学ならではのイベントのほか、音楽ライブやダンスステージ、eスポーツ大会、球技大会、スタンプラリー、模擬店などが各所で行われ、大いに盛り上がりしました。人気のビンゴ大会は前夜祭を含めて連日行われ、外に来ていた患者さんや小さなお子さんも賞品をゲットして大喜びでした。



ビンゴ大会の会場では屋外にまで人があふれました



バレエ・新体操同好会による華やかなステージ



来場者を星茶でおもてなし



模型を使って心臓マッサージを体験



2023年 11月

大学

## 大学11号館がリニューアル!

本学の研究と産官学連携の推進を支える新たな拠点として、大学11号館がリニューアルオープンしました。3～5階には、大学の寄附講座および共同研究講座、協業を開始している川崎重工業・富士フィルム等をはじめとした企業が入居。4・5階は医工連携などの実験を行うウェットエリア、また、3階ドライエリアには本学の研究者と企業の研究者が自由にディスカッションできるオープン・プラットホームなスペースを設け、より良い医療サービス・製品の社会実装への加速を図ります。

1・2階は、病態モデル先端医学研究センターのサテライトとして拡張整備されました。これにより機能が充実され、PDX・BSL3・ノトバイオート動物を飼育できる設備が整えられ、がん・感染症・腸内細菌環境の研究にも対応することが可能に。さらに2階には、特定の病気を持つ患者さんの血液および手術などで摘出された組織を、病歴・治療経過・検査の結果などの診療情報とともに保管するバイオリソース室を大学1号館から移設。バイオリソース室の移設は、生体試料を集積・保管するバイオバンクに関する国際標準規格ISO-20387取得を将来構想に据え、さらに本学ヘルスデータアーキテクチャセンター (HDAC) との連携による生体試料へのスピーディーな臨床情報付与から、研究者へ提供する試料データの価値向上をめざした環境を整備しました。



BSLレベルの個別換気ケージと安全キャビネット



ノトバイオート研究時に使用するバイオセーフティステーション

新たに5階までのエレベーターが設置されました

**5F**  
イノベーションセンター

**4F**  
イノベーションセンター

**3F**  
イノベーションセンター

**2F**  
病態モデル先端医学研究センター・バイオリソース室



**1F**  
病態モデル先端医学研究センター

星長清隆理事長、湯澤由紀夫学長、岩田仲生研究推進本部長が11月14日に竣工したばかりの新たな施設を視察。導入した設備や構想の説明を受けた岩田研究推進本部長は「研究者が集い、イノベーションが創出される拠点としたい」と期待を述べました。



2023年 12月

大学

## 上海交通大学医学院リハビリ研究院と本学保健衛生学部がMOUを締結

保健衛生学部は12月1日、上海交通大学医学院リハビリ研究院とリハビリテーションに特化したMOU協定を締結しました。昨年6月に本学は同大学医学院との間に学術協力および人材交流を目的としたMOUを締結しており、今回はその発展形として、リハビリ領域における相互協力の強化をめざしています。

協定締結のため11月29日～12月1日に3日間の日程で上海交通大学副学長・医学院院長 范先群教授ら計11名が来学。大学施設や大学病院を視察されたほか、リハビリテーション学科および看護学科との共同シンポジウムにも参加し、学生や教員と情報共有や意見交換などを行いました。また、范副学長らは開所したばかりの先端医療研究センターにも足を運び、同所で取り組

む最先端の医療やリハビリロボットなどを見て回られました。今回の協定締結を通してリハビリ領域における先導的な役割を果たし、アジア全体の医療水準向上に寄与することをめざします。



MOU締結後、上海交通大学 范先群副学長 (写真下段右から3番目)らと記念撮影



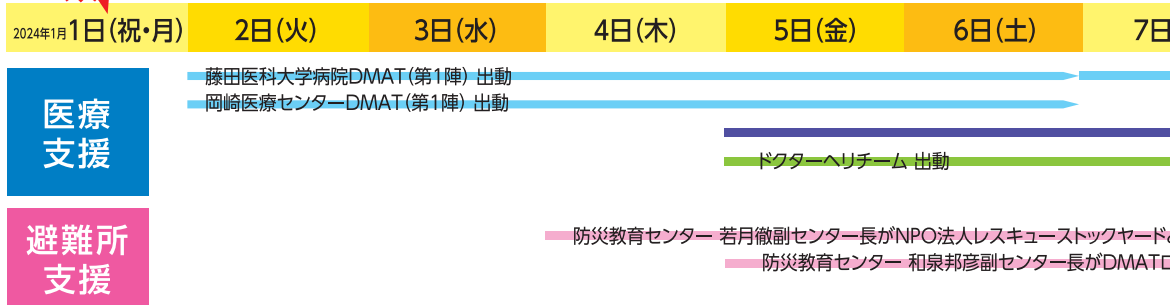
上海交通大学医学院附属瑞金医院 謝青リハビリ医学科 主任教授による講演

その時、いちばん動ける藤田学園へ

# 令和6年 能登半島地震 支援活動

16時10分頃  
最大震度7の  
地震が発生

元日に発生した能登半島地震。翌日の2日には、愛知県からの要請を受け藤田医科大学病院と岡崎医療センターからDMAT（災害派遣医療チーム）が出動。その後もドクターヘリチームほか、医療者や教員・事務職員が現地に入り医療支援や避難所支援などさまざまな活動を行っています。今号では1月28日までの本学の支援活動状況をまとめました。



## DMATが被災地へ出動

### 藤田医科大学病院

1月2日から継続的にDMATが出動。福祉施設や病院などの被害状況を確認し情報を整理する情報班、高齢者施設からの患者搬送活動やドクヘリでの患者搬送の調整をする搬送調整班など多岐にわたって活動しています。



避難所の状況を確認し搬送調整をする看護部 伊藤綾香主任(左)、平松旭主任(中央)、救急医学・総合内科学 五島隆宏講師(右)



亀裂箇所に敷かれたブルーシートの重しを手作業でどかしながら慎重に走行



石川県庁には全国のDMATが参集しました



自衛隊ヘリに藤田DMATが同乗し能登半島から名古屋空港まで患者さんを搬送しました

### 岡崎医療センター

甚大な被害を受けた能登町と珠洲市で災害支援活動を実施。能登町で孤立施設の現地調査を行ったのち、珠洲市総合病院のERでの夜勤・当直支援や入院患者の搬出支援など、超急性期から急性期に移行する過程での被災地支援に参画しました。



道中の路面調査も実施。亀裂した道も多く移動には時間を要しました



## 藤田医科大学 能登半島地震支援体制

### 総本部

総本部長:湯澤由紀夫学長

### 病院医療支援本部

本部長:白木良一病院長  
副本部長:岩田充永副院長  
眞野恵好看護部長  
成田達哉事務部長

### 避難所支援本部

本部長:金田嘉清防災教育センター長  
副本部長:若月徹防災教育センター長  
和泉邦彦防災教育副センター長  
穴水町社会福祉協議会およびNPO法人レスキューストック  
カードと連携し、石川県穴水町の避難所運営を支援。

### DMAT班

愛知県からの要請を受け、被災地に医療チームを派遣。

### ドクヘリ班

石川県からの要請を受け、医師・看護師などの人材派遣ほか、物資や患者さんを搬送。

### 病院支援班

現地病院の機能正常化を支援することを目的に医療支援チームを派遣。

### 患者受け入れ班

健康状態が悪化する恐れのある高齢者などの被災者を受け入れ。

(日) 8日(祝・月) 9日(火) 10日(水) 11日(木) 12日(金)

石川県保健医療福祉本部(石川県庁内)で藤田医科大学病院DMATが搬送調整班として活動

日本法医学会の要請により医学部法医学 小澤周二講師が死体検案対応

藤田医科大学病院に高齢者施設の入所被災者3名を受け入れ

とともに石川県穴水町の避難所の運営支援へ  
ロジスティックチームとして1.5次避難所開設支援



1月2日～12日までの  
活動記録

## 正式運航前に ドクターヘリチームが出動

2月1日のドクターヘリ運航開始を前に石川県からの要請を受け、1月5日からドクヘリチームが始動。毎日、県営名古屋空港と石川県を往復し、災害支援活動に従事しました。



ERで診療業務に従事



傾斜する施設の外壁の被害状況を施設職員と確認するDMAT



能登総合病院でのミーティングの様子



正式運用前のため、県営名古屋空港から毎日離着陸



今回の運航にはBell429を使用

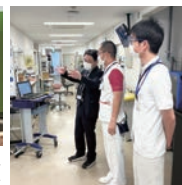


珠洲市のキャンプ場がドクヘリ基地として使用されました

## 金沢医大病院の支援に病院医療チームが出動

被災した患者さんを多数受け入れている金沢医科大学病院からの支援要請を受け、藤田医科大学病院の医療チーム（医師2名、看護師2名、事務職員1名）が1月13日から交代で継続的な支援活動を開始。避難患者さんに対する診療機能の一部を引き受け、病院機能の正常化および、災害医療と通常診療の両立化を支援しています。

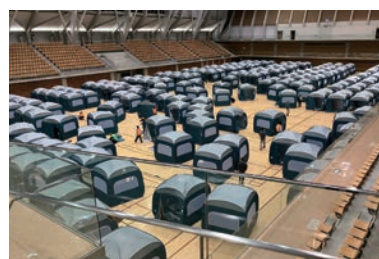
病棟で現地の医師とディスカッションする救急総合内科  
山際暁子助教（中央）と呼吸器内科 赤尾謙助教（右）▶



ERで対応にあたる看護部 村松恵多主任（中央）・  
新家翼副主任（右）と応援に駆け付けた岩田充永副院長▶

## 1.5次避難所の開設を支援

いしかわ総合スポーツセンターでの1.5次避難所の開設を、防災教育センターの和泉邦彦副センター長が支援。避難者が過ごすテントのレイアウト作成や、現場立ち上げ時のミーティングの進行、最初の避難者の受け入れなどを担当しました。1.5次避難所とは、被災した妊婦や高齢者など特に配慮が必要な方がホテルなどの2次避難所に移るまでの一時的な受け入れ先になるものです。



テント設置を進める様子▶

2024年1月

13日(土)

14日(日)

15日(月)

16日(火)

17日(水)

18日(木)

19日(金)

20日(土)

医療  
支援

石川県保健医療福祉本部（石川県庁内）で藤田医科大学病院DMATが搬送調整班として活動

藤田医科大学病院DMAT（第2陣） 出動

金沢医科大学病院に藤田医科大学の医療支援チームを派遣

ドクターヘリチーム 出動

▶ ばんだね病院に高齢者施設の入所被災者1名を受け入れ

避難所  
支援

大学・法人本部教職員による石川県穴水町の避難所の運営支援活動開始

防災教育センター 和泉邦彦副センター長が  
DMATロジスティックチームとして1.5次、  
2次避難所への被災者の搬送調整

## 防災士の資格を取得した教職員らが 避難所を支援

穴水町社会福祉協議会より穴水町最大の避難所の支援の要請があり、防災士資格を有する教職員による運営支援プロジェクトが始動。同プロジェクトは医療資格を持った教員と事務職員でチームを組み、5泊6日を1クールとして現地に滞在。交代で約3カ月間の支援活動を予定しています。



炊き出し業務を手伝う若月准教授（右から2番目）



感染症の予防として  
衛生環境の整備を支援



体に不安のある高齢の方向けに自主  
トレーニングシートを作成し、配布しました



降雪に備えて被災家屋を調査



看護協会と連携し、  
避難者の状況把握を実施



被災者ニーズとボランティアの  
マッチング作業を担当



避難者の心身の困りごとに個別で  
健康相談や評価にあたる都築晃講師（左）



1/28

## ドクターヘリ運航開始式

愛知県が藤田医科大学病院に配備するドクターヘリの運航開始式が1月28日にスタッフ館イベントホールで行われ、大村秀章愛知県知事や柵木充明愛知県医師会会長をはじめ、県内の救急医療関係者ら約60名が出席しました。

挨拶に立った星長清隆理事長は、「愛知県の基幹災害拠点病院に指定されている藤田医科大学病院は、24時間いつでも災害に対応できる体制を整えてきた。高性能のドクターヘリを最大限活用し、愛知県内から中部地方に至るまで、一人でも多くの命を助けていきたい」と地域医療への貢献を約束しました。



約1年後には、広域搬送を見据えた  
航続距離約600kmの大型機種を導入予定



運航の開始に向け、大村愛知県知事、星長理事長らがテープカット



21日(日) 22日(月) 23日(火) 24日(水) 25日(木) 26日(金) 27日(土) 28日(日)

藤田医科大学病院DMAT(第3陣) 出動

岡崎医療センターDMAT(第2陣) 出動

藤田医科大学病院に高齢者施設の入所被災者1名を受け入れ

ばんだね病院に高齢者施設の入所被災者1名を受け入れ



1月13日～28日までの  
活動記録

## 学園が一丸となって支援を



藤田医科大学  
学長 湯澤 由紀夫

元日に発生した能登半島地震では、2日からDMAT2隊、4日から穴水町での避難所支援、5日からドクターヘリ活動、13日から金沢医科大学病院への医療者派遣と多くの教職員に被災地に入っていました。対応いただいた教職員の皆さまには心より感謝いたします。

今回の大地震でも、被災地では災害対策や訓練をしていたにもかかわらず、道路や上下水道の寸断など想定外のことばかりが起り、救護、復旧に時間を要しています。本学は2022年度より VISIONの新たな柱に「社会貢献」を加え、「災害時医療」を最重要課題として、体制整備を進めておりました。次は我が身と考え、職員の皆さまにはより一層の危機意識の共有と体制整備へのご協力をお願いいたします。



1月13日、学園幹部とともに避難所支援に向かう教職員を見送りました

大学

# 2023年度 卒業証書・学位記授与式



3月10日に藤田医科大学卒業証書・学位記授与式ならびに大学院学位記授与式が執り行われ、671名の学生が新たな一歩を踏み出しました。昨年に続き、今年もフジタホール2000で保護者が卒業生の晴れ舞台を見守りました。



式では、卒業生代表に卒業証書・学位記が手渡され、続いて理事長賞、

学長賞、克己復禮賞が授与されました。湯澤由紀夫学

長は、THEアジア大学サミットや新型コロナウイルス

患者の受け入れ、手術支援ロボットhinotoriを使用し

た海外との遠隔実証実験など、これまでの本学の取り組みを振り返り、「皆さんが学生生活を過ごしたこの数年で藤田学園も大きく成長した。その中で学んだことを生かして、社会に貢献する人材になることを期待している」と式辞を贈りました。答辞として、卒業生代表3名が学生生活での学びや感謝、今後の抱負を述べました。

式の最後には、教職員らの心温まるメッセージを込めた動画を上映。旅立つ卒業生たちへエールを贈りました。



式の最後には、教職員から卒業生たちへ心温まるメッセージを込めた動画を上映



今年はフォトスペースにフォトブロップスを用意。卒業生からも好評でした

## 2023年度 卒業生および修了生の人数

医学部	
医学科	120名
医療科学部	
医療検査学科	125名
放射線学科	93名
保健衛生学部	
看護学科	135名
リハビリテーション学科	108名
(理学療法専攻65名・作業療法専攻43名)	
大学院医学研究科	
博士課程	
医学専攻	21名
内科系専攻	1名
論文提出による博士	5名
修士課程 医科学専攻	2名
大学院保健学研究科	
博士後期課程	4名
修士課程	57名

## 2024年3月 国家試験結果

学部・学校	学科	資格名	区分	受験者	合格者	合格率%	全国平均
医学部	医学科	医師（第118回）	新卒	120名	117名	97.5%	95.4%
			既卒	3名	2名	66.7%	58.9%
			計	123名	119名	96.7%	92.4%
医療科学部	臨床検査学科	臨床検査技師	(第70回)	101名	100名	99%	76.8%
	放射線学科	診療放射線技師	(第76回)	93名	85名	91.4%	79.5%
	臨床工学科	臨床工学技士	(第37回)	24名	24名	100%	79.5%
保健衛生学部	看護学科	看護師	(第113回)	134名	134名	100%	87.8%
		保健師	(第110回)	19名	19名	100%	95.7%
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	理学療法士	(第59回)	65名	65名	100%	89.2%
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	作業療法士	(第59回)	43名	43名	97.8%	84.1%

(注) 医療科学部・保健衛生学部の受験者数は、既卒者を含みません。



2024年 4月

大学

## 2024年度 入学式



式辞を述べる湯澤学長

4月7日、2024年度の入学式がフジタホール2000で執り行われ、新入生762名が本学での新たな一歩を踏み出しました。

式典では、各学部長と新入生が対面し、代表学生が壇上で宣誓と署名を行いました。湯澤由紀夫学長は防災士資格取得の推進やアジアの主要大学との連携強化などの取り組みを紹介し、「能登半島地震では、防災士の資格を持つ学生が被災地で災害支援を行い、避難所運営者や被災者から感謝の声をいただいている。このように学生一人ひとりが問題解決能力を持ち、積極的に社会貢献できる人材に成長していることを感じている。新入生の皆さんも独創力と問題解決能力を磨き、将来は世界で活躍できる人材になってほしい」と式辞を述べました。星長清隆理事長は「藤田は社会貢献をめざす取り組みを本気でやっている。新入生の皆さんも本学の一員としてそれぞれの目標に向かって努力を続けてほしい」とエールを贈りました。



管弦楽部による演奏で入学生をお出迎え

## 2024年度 新入生数

医学部	120名	大学院	142名
医療科学部	235名	医学研究科	
医療検査学科	141名	博士課程	44名
放射線学科	94名	修士課程	3名
保健衛生学部	265名	病院経営学・管理学	
看護学科	140名	専攻専門職学位課程	14名
リハビリテーション学科	125名	医療科学研究科	
		博士後期課程	5名
		修士課程	37名
		保健学研究科	
		博士後期課程	8名
		修士課程	31名
		計	762名

## 2024年度 入学記念演奏会・講演会

川崎重工業株式会社の橋本康彦代表取締役社長執行役員 最高経営責任者を講師に迎えた入学記念講演会が4月8日、フジタホール2000で開催されました。橋本氏は自身の大学時代から現在までの歩みを振り返りながら、「大学時代に掴む人生の羅針盤」をテーマに講演しました。幼少期からロボットに魅了されていた橋本氏は、大学工学部を経てロボット開発を夢見て入社。その情熱が後に医療ロボット事業立ち上げの原動力となったことや、現場に足を運び、課題を肌で感じることで



石上さんと北端さん

実用的な技術を生み出してきた経験を語り、「夢中になれることに取り組む、社会へと目線を上げる、現場から学ぶの3つが自分の人生の羅針盤になった」と回顧。「藤田に入学した皆さんも、自分自身の羅針盤を見つけて、人生を豊かに過ごされることを願っています」と締めくくられました。

講演会の前には、京都府立医科大学医学部卒業のバイオリニスト・石上真由子さんとピアニストの北端祥人さんがシューベルトの「アヴェ・マリア」など計7曲を演奏。美しい調べで新入生を歓迎しました。



川崎重工業株式会社の  
橋本康彦代表取締役社長執行役員  
最高経営責任者が講演



藤田医科大学病院

七栗記念病院

岡崎医療センター

5月12日は



看護の日  
看護の心をみんなの心に

# 看護の日ナーシングフェスティバル

5月12日の看護の日に際し、藤田医科大学病院、七栗記念病院、岡崎医療センターの3拠点で看護の心やケアの大切さを伝えるイベントが開催されました。

## 藤田医科大学病院

「私らしく生きる——“今までのいのち”と“これからのいのち”」をテーマに、昨年度に続いて終末期の意思決定を含めた人生会議の必要性を伝える講話やディスカッションを5月14日に実施。フジタモール2階のメイン会場とB棟1階ホスピタルパサージュのサブ会場をオンラインでつなぎ、約80名が参加しました。

第1部の講話では、認知症と救命救急に携わる認定・専門看護師が、判断力の低下や意識混濁などで自身の思いが伝えられない場合に備え、事前に治療や看取りに関する希望を家族や医療者と共有しておくことの大切さを分かりやすく解説しました。続く第2部のディスカッションでは、当院腎臓移植患者・腎臓移植希望患者会かきつばた会会長の三好こずえさんと若年がんサバイバーの加藤那津さんが登壇。10代でI型糖尿病と診断された三好さんは、母親から言われた「自分より先に亡くならないで」の一言で移植を決断したエピソードなどを話しました。一方、15年前に31歳で乳がんを発症し、肝臓と骨への転移のため治療を続けている加藤さんは、自分が必要な時に「助けて」といえる“私のチーム”を作っていることを紹介。家族・友人・治療仲間・医療者など相談できるサポーターが増えたことで、「今が一番、不安が少ない」と笑顔を見せました。

今回の企画について眞野恵子看護部長は、「医療では患者さんやご家族が選択・決断しなければならないことが往々にしてあります。このイベントを機に人生会議について考えてほしい」と話しています。



三好さん(前方右側)とレシピエント移植コーディネーターの伊藤美樹看護師(同左側)によるディスカッションの様子



看護師に「私たちに何でも相談していいんだよ」と言われて気持ちが楽になったと話す加藤さん(右)。左は緩和ケア認定看護師の宇野みゆき副主任



会場の一角に「人生会議ノート」の記入コーナーを設置。看護師らが書き方をレクチャーしました

## 七栗記念病院

七栗記念病院は、5月25日、津市久居アルスプラザで「ナイチンゲールフェア・合同市民公開講座」を三重中央医療センター、榊原病院と合同で開催し約280名が来場しました。市民公開講座では、連携リハビリテーション科の角田哲也講師が災害時のリハビリテーション支援について講演。会場では、看護師による健康チェックやアロマ体験、療法士による健康体操、管理栄養士による栄養相談、子どもたちの薬剤師1日体験などさまざまな催しを行いました。ブースは高齢者から家族連れまで幅広い層でにぎわいました。



角田講師は「災害時にはどんな準備よりも日々の体力作りが重要になる」と総括しました



アロマの香りとマッサージで参加者に癒しの時間を提供

## 岡崎医療センター

「自分らしく暮らすためにこれからのことを考えましょう!」をテーマに、ACP(人生会議)や医療・ケアについて考える看護の日のイベントを看護部が主催。5月11・12日の2日間で157名が来場しました。両日も、専門・認定看護師による“病気とうまく付き合うコツ”などの相談会をはじめ、理学療法士と一緒に体を動かす体操コーナー、福祉用具の相談会、企業の展示などのプログラムを用意し、参加者からは「病気に対するアドバイスをもらえて安心した」「定期開催してほしい」など大好評でした。



体操コーナーでは患者さん個々に対応した体操を紹介



多くの患者さんが相談会に興味を持たれ、熱心に耳を傾けていました





## 能登半島地震における医療支援活動および避難所運営支援「感謝の集い」を実施



能登半島地震における本学の医療支援活動および避難所支援活動がすべて終了したことに伴い7月3日、フジタホール2000とレストピアふじたで、現地に赴いた教職員・学生への感謝状贈呈と活動報告会を兼ねた「感謝の集い」が行われました。

本学は1月2日より医療支援チーム、1月4日より避難所運営支援チームが活動を開始。延べ1,013名(医師125名、看護師134名、教員277名、事務職員296名、学生181名)が支援活動に参加しました。医療チームは3月に活動を終了、避難所運営支援チームも拠点となった指定避難所「穴水町さわやか交流館ブルート」の閉鎖に伴い5月に活動を終えています。

感謝の集い第1部では、3月に行われた医療チームへの感謝状贈呈式と同じく、避難所運営支援チームに星長清隆理事長から感謝状が贈られました。活動報告では「健康体操は最後まで継続でき、避難者の方からも大変好評だった」「避難所に停めていた車のワイパーに“支援ありがとう”と書かれた手紙が挟まっていた、すごくうれしかった」など貴重な経験を思い思いの言葉で語りました。



感謝の集い第2部では医療チームおよび避難所支援チームのメンバーへの感謝と労いの気持ちを込めて食事会とビンゴ大会が開催されました。会場となったレストピアふじたにはお寿司やローストビーフなどの豪華な食事が並び、参加した約120名は現地での活動を振り返りながら食事を楽しみました。支援先の金沢医科大学と穴水町の避難所職員から届いたメッセージ動画も放映され、心温まる感謝の声に、現地での思い出話が会場のあちこちで交わされていました。

最後に湯澤由紀夫学長が「今後、災害訓練はこれまで以上に本格的にやっていきます。今回の経験をそこで発揮して欲しい」と会を締めくくりました。





2024年 8月

# OPEN CAMPUS 2024

## オープンキャンパス2024報告

8月に各学部・学科が主体となり、オープンキャンパスを開催。多くの方が来場しました。

▶ 来場者数: 医学部/510名 医療科学部・保健衛生学部/計2,206名



### 医学部〈8/11(日) 9:30-16:30開催〉

医学部のオープンキャンパスは、本年度も来場とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。「医学部長による学部説明」「在学生トーク」「入試説明」「保護者向け説明」のほか、来場者限定のコンテンツとしてドクターヘリ見学、病院・研究室見学ツアー、模擬講義、体験企画などを実施しました。

病院・研究室見学ツアーでは、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や手術台と血管造影装置を組み合わせたハイブリッド手術室、大学の研究室などを案内。参加者らは、「設備がすごくて驚き」と、最新機器の多さ、研究力の高さに感心していました。

また、本学の医学部教授による高校生にもわかりやすい「模擬講義」や「面接対策講座」を実施し、多くの方に本学の特色や学びを体感していただきました。



病院見学ツアー(手術室)



病院見学ツアー(放射線棟)



模擬講義



在校生トーク



面接対策講座

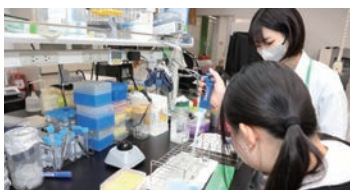
### 医療科学部/保健衛生学部

### 〈8/3(土)・4(日) 9:00-14:00開催〉

医療科学部・保健衛生学部は、今年度、見学・体験できるコンテンツをパワーアップ。初となるドクターヘリ、ドクターカー、エクモカーを見学するコンテンツでは、高度救命救急センタースタッフによる説明、機体・車体見学、写真撮影などを実施。人気ドラマの影響もあってか、事前予約はすぐに埋まる人気ぶり。画面越しとは違う間近で見るドクターヘリの大きさに、多くの参加者が圧倒されていました。

各学科では、実際の学びを体感できる体験型プログラムや模擬講義、病院見学、キャンパスツアー、個別進学相談会などを行い、参加者は、教員や学生の説明に真剣な表情で聴き入っていました。このほかにも、名鉄前後駅からのスクールバス臨時運行、学生食堂で名古屋めしの提供などを通して、入学後の学生生活をシミュレーションしていただきました。

医療科学部・保健衛生学部では、9月以降もミニ・オープンキャンパスなどの高校生向けのイベントを実施する予定です。



医療検査学科 臨床検査学プログラム



医療検査学科 臨床工学プログラム



放射線学科



看護学科



リハビリテーション学科



ドクターヘリ見学





## 恩師からのお便り (順不同)

### 振りがえると



藤田医科大学  
医学部  
名誉教授  
三九朗病院医師  
**園田 茂**

2000年度から藤田のリハビリテーション医学講座に勤務し、2024年3月に定年退職した園田 茂と申します。そのあいだの殆どを七栗記念病院で過ごしました。

退職して振りがえると、質の高い医療・研究が何げなく近くにあり、また何かをする際の手助けとなるリソースが存在する贅沢な環境だっ

たな、と思います。目標に追われる感もありましたが、締切無しだとペースが落ちる人にとってはよかったのかもしれません。

管理職メインから臨床に戻り、豊田市で活動しています。何かの機会がありましたら交流をお願いいたします。

### 同窓会活動を応援しています



藤田医科大学  
保健衛生学部  
名誉教授

**三吉 友美子**

私は、衛生学部 衛生看護学科の教員として2000年に貴学に赴任し、2024年3月に定年退職しました。その間、同窓会の皆様には大変お世話になりました。支えていただいたことに心から感謝申し上げます。

卒業生でない私からみて、貴大学の同窓生は強い絆で結ばれていました。学生時代に培われた絆を卒業後に深める一助を担っているのが同窓会活動のように感じます。私が卒業した短期大学は随分前に閉校し大学になりましたが、そ

の際、短期大学の同窓会とは別に、大学には新たな同窓会がつくられました。そのため、ただでさえ看護学科のみの卒業生で組織された小さな同窓会でしたのに、新たな会員を得られず、活動を制限せざるをえない状況に直面しました。そのような経験を踏まえますと、50年以上の歴史があり、複数の医療職で構成される貴同窓会は、貴重であり、すばらしいと感じています。同窓会のますますの発展を祈念しています。

### 藤田学園への感謝の想いを込めて



藤田医科大学  
医療科学部  
名誉教授

愛知淑徳大学  
医療貢献学科  
臨床検査学専攻  
教授

**秋山 秀彦**

2024年3月末で定年退職を致しました。当時の衛生技術学科(10回生)に学生として入学以来、47年間藤田学園でお世話になり、厚く御礼申し上げます。大学病院から大学に異動後、学科長7年間、副学部長3年間はを拝命し、その間大きな問題もなく成し遂げられたことは、ひとえに教職員の皆様のご理解とご支援の賜物と深く感謝する次第です。学生時代の思い出は、卒論生として藤田啓介総長先生にご指導いただいたこと、また教員になってからは、『藤田学園づくりに寄せて 負けてたまるか りすにひと

りごちけり七栗の谷』の総長先生の言葉を座右の銘として、苦しみ悩んだとき、頑張ることができました。退職後は、2024年4月1日より、愛知淑徳大学 臨床検査学専攻 (定員40名)で臨床検査技師教育に携わることができ、社会に貢献できる臨床検査技師を育成したいと考えています。これからも益々発展していく母校である藤田学園をみながら、卒業生の皆様のご健康とご発展を祈念いたします。長きにわたりお世話になり、心より感謝申し上げます。

## 三刀流医師が目指した「あけぼの杉、獨創一理・・・」



藤田医科大学

医療科学部

名誉教授/客員教授

安倍 雅人

1977年4月の名古屋保健衛生大学医学部入学から2024年3月の退職まで半世紀近い年月を藤田学園で過ごし、入学式、卒業式、辞令交付式等で藤田啓介総長先生から「よろしく願います」とのお言葉を賜りました。

卒業してからの41年間は神野哲夫先生の下で脳神経外科医として11年、群馬大学の中里洋一先生、本学の笠原正男先生および黒田誠先生の下で病理医として30年務め、二職種の経験を基にした三刀流として、患者さんの治療に役立つ脳腫瘍の臨床病理学的診断を実践してきました。また、2008年から退職までの16年間は医療科学部の教授として大学教員の様々な業務に携わり、脳神経外科医、病理医、大学教員の三刀流となりました。そして、医学部の臨床および基礎、医療科学部、保健衛生学部等の学園内の様々な部署で多くの医療従事者の教育に関わり、「アセンブリ」、「チーム医療」、「師弟同行」等に直に触れることができました。

また、退職間際にある先生から「先生の真摯な、まっすぐの人生は見事でした」とのお言葉を頂きました。これは脳腫瘍の病理診断という比較

的ニッチな領域で頑張った、故に他大学の先生方から一目置かれていた、という様なニュアンスと捉えています。そして、この状況は初代同窓会長である総長先生の同窓会誌「あけぼの杉」の命名の記である「卒業生のすべてのかたが、本業であれ本業でなかれ、あけぼの杉のように他の木にぬきこんで、空に向かって凛と伸び、やさしい葉をつけた枝を大きく張ってほしいと願う私の心中である」に通じるものがあり、私にとって大好きなお言葉となりました。さらに、その後半の「やさしい葉をつけた枝」は病気で苦しむ患者さん、診療に苦慮する医師、勉学に悩む学生さん等にそっと寄り添い、優しく包みこみ、良い方向へ導くことを表していると自分ながら解釈しています。そして、それらが三刀流であった自分が目指したものであり、皆さんのお役に少しはたてたものと思います。

以上の様な活動が自分なりの「獨創一理」と勝手に解釈し、総長先生から「よろしく」と言われたお言葉に多少なりともお返しできたものかと考えています。

## 卒業生の活躍を知り喜ぶ



元藤田医科大学・

医学部・生理化学

教授

現医学部・生理学1

客員教授

中島 昭

2024年3月末をもって定年退職いたしました。学生時代に生理学をご教授いただいた伊藤龍先生のご講義が難解で、その大半を理解できなかったため、生理学を学びたいとの思いが募り、生理学研究の道に足を踏み入れ現在に至っています。卒業後、愛知医科大学医学部・生理学1に在籍していましたが、1989年に医学部・生理学1に移籍させていただきました。藤田での教育・研究生活は35年となります。振り返ると、苦しかったことよりも、学生と過ごした楽しい思い出の方が強く記憶に残っています。生理学1の助教授であった頃、教室配属を希望した繼敏光君（2002年卒業）と一緒に研究を

行い、共著で論文を報告しました。卒業後、彼は慶應大学で研修・大学院を修了し、現在はベルギー・ブリュッセル自由大学（Universitair Ziekenhuis Brussel）医学部・放射線科の准教授として活躍され、ノーベル賞受賞者の根岸英一先生が設立されたUJA論文賞を2023年に受賞されています。よく知る学生が世界で活躍する姿を見て、自分のことのように喜びを感じています。「人生究極の事業とは教育である」との藤田啓介先生の信念が少し理解できたように思います。ご活躍されている卒業生の皆様の益々のご発展を祈念しています。



我慢人形・祈り人形



## 名古屋衛生技術短期大学2回生同窓会開催

2024年4月12日(金)、ANAクラウンプラザホテル名古屋において卒業55年の節目同総会を開催いたしました。年齢は最年少者で75歳、当時は社会経験がある方も多く入学し、バラエティーに富んだクラスメイトでした。2回生の卒業生179名中参加者は22名でした。遠くは高知県、島根県、大阪府、神奈川県などからも参加していただきありがとうございました。次回の再会を約束して散会としました。卒業後初めて母校を訪れた方もいて、母校はなくなったけれど藤田学園の発展に感動したことでしょう。藤田学園同窓会事務局長には開催準備に始まり、キャンパスの案内を引き受けていただき本当にお世話になりました。

2024年5月  
短期大学2回生 坂田 実 他世話役一同



## 第9回衛生学部4回生同窓会in 鹿児島

名古屋保健衛生大学衛生学部4回生同窓会を9月26日城山ホテル鹿児島にて開催しました。新型コロナ感染の影響もあり、2018年の松山市以来6年ぶりの開催となりました。間近になり日向灘地震、台風等心配でしたが、北海道から沖縄まで36名が参加。久しぶりの再会に風貌は変われど面影があり、すぐに「ああ!」「元気?今、何してる?」と言った声が飛び交いました。

開会にあたり同窓会事務局長の丸田一皓先輩(衛生学部1回生:鹿児島出身)に祝辞を賜り、坂井一彦さんが70歳を越えた同窓生への労いと再会を祝って乾杯を行い会が始まりました。

現役ながら働いている人、リタイア後趣味を愉しんでいる人、親の介護をしている人などそれぞれ近況を報告しながら会話を弾ませていました。また先だった学友への思いも併せ黙祷で偲びました。

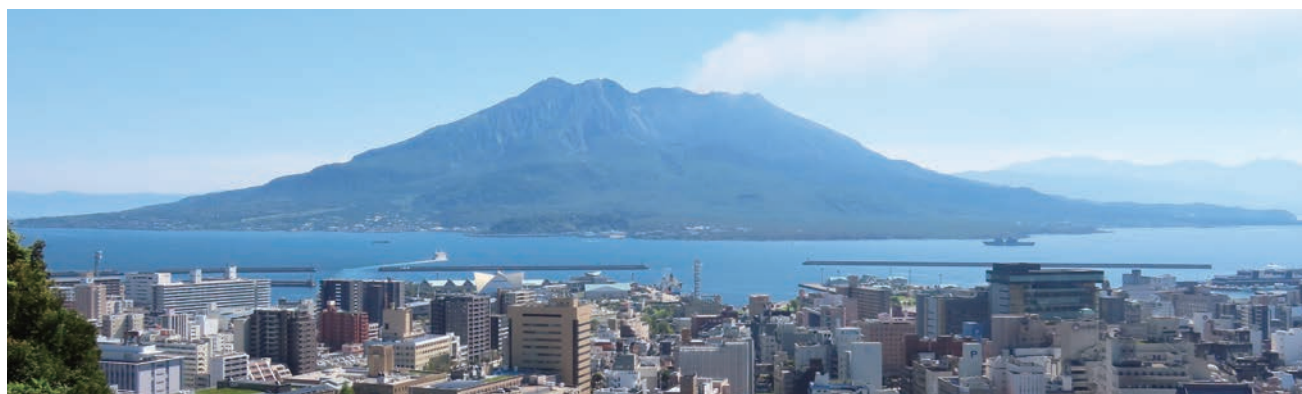
会半ば丸田先輩が学園の開学当初から現在の藤田医科大学キャンパス・病院までの状況を紹介。さらに同窓会恒例の小塚諭さんによる投影会も行われました。藤田啓介学長入学式式辞の様子とその原文、教官写真、いつまであったのだろうか?制服、ベンゼン核を模った学部校舎、当時の学費・再試験料領収書等が投影され、よく集めたものだと感心し、当時

の記憶が甦り感慨深い気持ちになりました。時が経つのも忘れ思い出話に花を咲かせながらの会となりました。

翌日は、残暑厳しい中、雄大な桜島を望む仙巖園、西郷南洲顕彰館、黎明館等市内を観光し鹿児島を満喫して貰いました。それでもまだまだ話し足りなかったのか、時間が止まったかのように語り合う同窓生達の姿は、若かりしあの頃と重なり、もう少し一緒に過ごしたかったのだらうと思いました。

2025年3月で卒業50年を迎えます。次回、何処かで開催されることを願い互いの健康を気遣いながらの散会となりました。同窓生有難う!

衛生学部 衛生技術学科4回生 宮之原 弘晃





# 2024藤田学園ホームカミングデー 卒後周年記念表彰者



卒後周年記念表彰式

日時  
2024年10月26日(土)

場所  
ANAクラウンプラザホテル  
グランコート名古屋



短大衛生技術科1974年卒



看護専1984年卒



短大衛生技術科1984年卒



衛生学部衛生技術学科1984年卒



医学部1984年卒



短大衛生技術科1994年卒



衛生学部衛生技術学科1994年卒



衛生学部衛生看護学科1994年卒



衛生学部診療放射線技術学科1994年卒



医学部1994年卒



## 同窓会からのお知らせ

### 専門学院部会

専門学院同窓会の活動は各学部・学校との「連帯」と「絆」にあります。藤田学園同窓会の一員であり各委員会にて理事および代議員が企画運営に参画を致しております。学園同窓会主催の親睦会や意見交換の機会に是非ご参加下さる事を願っております。近々、同期の会や小人数の集いを計画されている皆様のご意見やご要望をお聞かせください。

医学技術専門学院同窓会会長 小久保 正博

### 藤 衛 会

一般社団法人 藤衛会は2024年4月現在、医療科学部・保健衛生学部卒業生ならびに大学院保健学研究科修了者を合わせ16,491 名から構成され、卒業式の卒業記念品（印鑑）、各学科卒業生の周年記念同窓会支援、支部設立の支援、本学関連の学会支援要請に対する補助金援助、同窓生による学術講演会の支援、在学生及び留学生の国際交流支援等を行っております。本年度は、合同校舎（看護学科棟）6階にAED 1台を現物寄附いたしました。また、新入学生の歓迎と同窓会活動のPRを目的として「医療科学部・保健衛生学部新入生オリエンテーション」への協賛、「学生専用パス（スクールパス）運営」に対する支援として、学校法人藤田学園に寄附を行いました。なお、藤衛会の詳細な活動につきましてはホームページでご確認ください（<http://www.fujita-hu.ac.jp/~dousou68/index.html>）。今後も同窓生と母校との架け橋となるよう尽力いたす所存です。同窓生の皆様方のご協力、ご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

藤衛会会長 西井一宏

### 藤 医 会

令和5年4月から藤医会第6代会長の5期目を拝命して、豊田地域医療センターで勤務をしながら、同窓会活動に関わっております。藤田学園に入学して以来この学園のありのままを50年間にわたり直視してきましたので、様々な経緯は熟知しております。この経験を生かして、医学部の50周年を藤田啓介先生が建学をされたときに、理想とされていた医学部に成熟させるべく全力で活動をさせていただいております。副会長を根本浩路先生（6回生）大槻眞嗣先生（11回生）、篠崎仁史先生（15回生）に留任していただきバランスの良い藤医会活動ができております。私も同窓会活動の円滑な実施に大局的に取り組めるようになりました。藤田学園同窓会の皆様におかれましては、藤医会の活動にご理解いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

藤医会の活動としましては、年2回の会報の発行、2年に1回の会員名簿の発行、年1回の総会、卒業生の教授就任記念講演会・祝賀会の開催、および各支部の支部会訪問を行っております。しかしながら会員名簿の発行は、近年の個人情報の厳しい状況を鑑み現在は中止をしております。詳細はホームページをご覧くださいましたら幸甚に存じます。

藤医会会長 黒田 誠

### カズモス部会

カズモス同窓生の皆様には、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、学園同窓会活動にご理解ご支援を賜りありがとうございます。

カズモス同窓会は、藤田学園同窓会活動に賛同し協同活動をしております。当同窓会活動をする代表として、理事・代議員を募集しており、自薦・他薦構いませぬので是非、お申し出をお願いします。

藤田学園同窓会およびカズモス部会に対してのご要望、ご連絡等は、下記メールアドレスまでお送りしていただきたく存じます。

最後に、同窓生皆さんのご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

カズモス同窓会会長 兼田道男

E-mail : [nursing-net@onyx.ocn.ne.jp](mailto:nursing-net@onyx.ocn.ne.jp)

### リハ専同窓会部会

リハビリテーション専門学校は、2007年3月に閉校し、保健衛生学部リハビリテーション学科に移行されてもうすぐ17年を迎えます。多くの卒業生達が全国各地や海外でも活躍しています。

リハビリ専同窓会の活動としては、藤田医科大学リハビリテーション学科卒後研修会としてFIMに関する研修会を継続的に実施しています。藤田創立50周年を迎え、同窓生の皆様が勉学に励んでいらした時より病院や大学が

大きく変化しております。お近くにお越しの際は、変化した藤田学園を一目見に是非立ち寄って下さいますようお願い致します。

リハ専同窓会会長 山田 将之

### 短期大学部会

短期大学同窓会員の皆様には、益々お元気に過ごしのこととお慶び申し上げます。

2023年度の役員総会を、今年6月8日（土）13時30分から、大学内の施設で2019年以来の対面での開催をしました。議案として、①2023年度活動・会計・監査報告、②2024年度の予算案・役員案の変更、③会則について、事業年度と会計年度のそれぞれの開始期間を、「10月1日より、翌年9月30日まで」から「4月1日より、翌年3月31日まで」に変更することが、承認されましたので報告させていただきます。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）から概ね解放され、日常生活もコロナ前に戻ったと感じる今日この頃です。多くの外国人が来日していて、日本各地で見受けられるようになり、日本経済の回復も期待されることでしょう。

この様な事も考えながら、ふと母校短期大学の事が脳裏を過ぎりました。はて？ 短期大学が存続していたら今年で何年目になるだろう…。1966（昭和41）年4月に開校してから再来年（2年後の2026年4月）に設立60年を迎え、閉校した2010（平成22）年3月31日からは、来年（2025年3月）で15年目になります。この様な節目の時期を迎えますので、同窓会の皆様には、母校や旧友との思い出を再確認されてはいかがでしょうか。

自粛されていた各同窓会を企画され、楽しく共に語り合える場となる貴重な会を、開催していただきたいと思います。そして、開催された折には、是非とも短期大学同窓会ホームページに、ご投稿をお願い申し上げます。

最後に、短期大学同窓会の皆様には、ご健勝であられますと共、今後とも短期大学同窓会にご支援、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

短期大学同窓会会長 川井 薫

### 看護専門学校部会

看護専門学校同窓会は藤田学園同窓会の事業計画に協働した活動をしていきます。同窓生の皆さまには藤田学園同窓会のホームページより活動状況をご確認ください。住所等の変更の際はホームページから届出いただきますようお願い申し上げます。令和6年6月には総会を開催する予定です。皆さまのご参加をお待ちしております。

看護専門学校同窓会会長 小島登美香

### 同窓会からのお知らせ

フジタEXOP2025と2025ホームカミングデーの開催

2024藤田学園ホームカミングデー（HCD）懇親会が開催されました。2024年10月26日（土）、350名の卒業生の皆様にご参加いただきました。学生時代を懐かしみ笑顔のあふれる楽しい2時間でした。また、昼間にはフジタEXPO2024も同時開催され、学園を訪れていただいた卒業生77名には懐かしくそして新しい学園を見学していただきました。

来年も2025藤田学園ホームカミングデーを2025年10月25日（土）に開催いたします。詳細が確定しましたら、ホームページその他ご案内いたします。2025年は1975年、1985年、1995年の卒業生がそれぞれ卒後50周年、40周年、30周年を迎えられます。そして藤田学園創設者 故 藤田啓介総長の生誕100年の年にも当たります。たくさんの卒業生にご参加いただくようお願いしております。詳細は藤田学園同窓会ホームページよりご案内いたします。

藤田学園同窓会ではアセンブリ精神に則り、卒業生の活動を様々な形で支援しています。例えば1. 学会などにおける親睦会支援、2. 支部設立支援、支部総会・懇親会支援、3. 県人会開催の支援、4. 学会、学術集会、研修会、研究会の支援、5. 会員の研究補助、6. 県人会、クラス会など開催のための名簿と宛名シールの提供、7. 理事会において認められた同窓会活動（事務局へご相談ください）などです。申込書を同窓会ホームページよりダウンロードし、Faxまたはeメールにてお申し込みください。

〒470-1192

愛知県豊田市沓掛町田楽ヶ窪1番地98

藤田学園同窓会事務局

電話・ファックス：0562-93-5674

e-mail : [dosokai@fujita-hu.ac.jp](mailto:dosokai@fujita-hu.ac.jp)

<http://www.fujita-hu.ac.jp/dosokai/>



藤田学園同窓会

# 2025年度 入学試験スケジュール

## 藤田医科大学 大学院

研究科名称	課程	試験区分	募集人員	出願期間(※切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
医学研究科	医学専攻 (博士課程)	第一次募集	52名	7月10日(水)から7月19日(金)まで	8月7日(水)	8月23日(金)	本学
		第二次募集		1月8日(水)から1月17日(金)まで	2月6日(木)	2月21日(金)	本学
	医科学専攻 (修士課程)	第一次募集	5名	7月10日(水)から7月19日(金)まで	8月7日(水)	8月23日(金)	本学
		第二次募集		1月8日(水)から1月17日(金)まで	2月6日(木)	2月21日(金)	本学
	病院経営学・管理 学専攻 <専門職大学院>	第一次募集	10名	7月10日(水)から7月19日(金)まで	8月3日(土)	8月23日(金)	本学
		第二次募集※		1月8日(水)から1月17日(金)まで	2月1日(土)	2月21日(金)	本学
医療科学研究科	医療科学専攻 (博士後期課程)	第一次募集	4名	8月13日(火)から8月23日(金)まで	9月2日(月)	9月9日(月)	本学
		第二次募集		1月27日(月)から2月7日(金)まで	2月17日(月)	2月25日(火)	本学
	医療科学専攻 (修士課程)	第一次募集	25名	8月13日(火)から8月23日(金)まで	9月2日(月)	9月9日(月)	本学
		第二次募集		1月27日(月)から2月7日(金)まで	2月17日(月)	2月25日(火)	本学
保健学研究科	保健学専攻 (博士後期課程)	第一次募集	6名	8月13日(火)から8月23日(金)まで	9月2日(月)	9月9日(月)	本学
		第二次募集		1月27日(月)から2月7日(金)まで	2月17日(月)	2月25日(火)	本学
	保健学専攻 (修士課程)	第一次募集	25名	8月13日(火)から8月23日(金)まで	9月2日(月)	9月9日(月)	本学
		第二次募集		1月27日(月)から2月7日(金)まで	2月17日(月)	2月25日(火)	本学

※第一次募集で定員が充たされた場合は、第二次募集を行わないことがあります。

## 藤田医科大学 医学部

学科名称(定員)	試験区分		募集人員	Web出願期間【書類提出期限】	試験日	合格発表日	試験会場
医学科(120名)	ふじた未来入試		一般枠と 独創一理枠 合わせて15名	10月1日(火)から 11月1日(金)まで 【11月5日(火)必着】	一次：11月10日(日)	11月14日(木)	本学
					二次：11月16日(土)	11月20日(水)	本学
	国際バカロレア入試		若干名※1	10月1日(火)から 11月1日(金)まで 【11月5日(火)必着】	一次：書類審査	11月14日(木)	
					二次：11月16日(土)	11月20日(水)	本学
	一般入試	前期	一般枠：82名 地域枠：5名	12月9日(月)から 1月24日(金)まで 【1月27日(月)必着】	一次：2月4日(火)	2月8日(土)	東京・名古屋・ 大阪
					二次：2月12日(水)または 2月13日(木)	2月15日(土)	本学
		後期	一般枠：5名 地域枠：5名以内※2	1月21日(火)から 2月25日(火)まで 【2月26日(水)必着】	一次：3月3日(月)	3月7日(金)	東京・名古屋
					二次：3月14日(金)	3月15日(土)	本学
	共通テスト利用入試		10名	12月9日(月)から 1月17日(金)まで 【1月20日(月)必着】	一次：大学入学共通テスト 二次：2月12日(水)または 2月13日(木)	2月8日(土) 2月15日(土)	

※1：国際バカロレア入試の募集人員は一般前期の82名に含みます。

※2：後期日程の地域枠の合格者が5名に満たない場合は前期日程の地域枠から追加合格を出します。

## 藤田医科大学 医療科学部・保健衛生学部

### ■ 募集人員・入試日程

学 部	学 科	定員	総合型選抜		推薦入試		一般公募制		一般前期入試		共通テスト利用入試		共通テスト プラス入試
			藤田フロン ティア入試	一般公募制 [専願]	一般公募制 [併願]	A日程	B日程 (3科目型)	B日程 (2科目型)	前期	後期			
医療科学部	医療検査学科	140名	20名	35名	15名	30名	15名	5名	10名	5名	5名	5名	
	放射線学科	90名	10名	20名	10名	20名	5名	12名	5名	3名	5名		
学 部	学 科	定員	総合型選抜				推薦入試		一般入試		共通テスト利 用入試	共通テスト プラス入試	
			ふじた独創 入試A	ふじた独創 入試B	ふじた独創 入試C	ふじた独創 入試D	一般公募制 [専願]	一般公募制 [併願]	前期 <sup>※1</sup>	後期	前期		
保健衛生学部	看護学科	135名	5名	5名	—	若干名	35名 <sup>※2</sup>	—	65名	5名	15名	5名	
	リハビリテーション学科 先進理学療法コース	115名	5名	5名	若干名	若干名	13名 <sup>※3</sup>		60名	5名	13名	3名	
	リハビリテーション学科 先進作業療法コース		3名	2名	若干名	若干名	6名 <sup>※4</sup>						

注1 [A日程][B日程]ともに合わせた人数

注2 一般公募制推薦【専願】、専門高校(看護)推薦若干名、社会人自己推薦若干名、指定校推薦・MOU指定校15名程度を合わせた人数

注3 一般公募制推薦【専願】、一般公募制推薦【併願】、指定校推薦・MOU指定校を合わせた人数

注4 一般公募制推薦【専願】、一般公募制推薦【併願】、指定校推薦を合わせた人数

試験区分		学部	出願期間(※切必着)	試験日	合格発表日	試験会場
藤田フロンティア入試(総合型選抜)		医療科学部	9月17日(火)から10月9日(水)まで	10月20日(日)	11月1日(金)	本学
ふじた独創入試(総合型選抜)		保健衛生学部	9月14日(土)から10月9日(水)まで			
推薦入試・特別入試		医療科学部	11月1日(金)から11月11日(月)まで	11月16日(土)	12月2日(月)	本学
		保健衛生学部	11月1日(金)から11月12日(火)まで	11月16日(土)	12月2日(月)	本学
一般入試(前期)	A日程	医療科学部	12月16日(月)から1月22日(水)まで	2月1日(土)	2月7日(金)	[A日程] 本学・東京・金沢・浜松・四日市・大阪
		保健衛生学部	1月4日(土)から1月23日(木)まで	2月1日(土)	2月7日(金)	[B日程] 本学 [A日程] 本学(リハビリテーション学科)、名古屋(看護学科)、東京・金沢・浜松・飯田・四日市(全学科)
	B日程	医療科学部	12月16日(月)から1月27日(月)まで	2月8日(土)	2月14日(金)	[B日程]本学
		保健衛生学部	1月4日(土)から1月30日(木)まで	2月8日(土)	2月14日(金)	本学
一般入試(後期)		医療科学部				
		保健衛生学部	2月5日(水)から3月3日(月)まで	3月5日(水)	3月12日(水)	本学
共通テスト利用入試(前期)		医療科学部	12月16日(月)から1月27日(月)まで	大学入学共通テスト 1月18日(土)・19日(日)	2月14日(金)	
		保健衛生学部	1月4日(土)から1月30日(木)まで		2月17日(月)	
共通テスト利用入試(後期)		医療科学部	2月17日(月)から3月11日(火)まで		3月14日(金)	
		保健衛生学部				
共通テストプラス入試		医療科学部	12月16日(月)から1月27日(月)まで	一般入試(前期) [A日程][B日程] 大学入学共通テスト	2月14日(金)	
		保健衛生学部	1月4日(土)から1月30日(木)まで	一般入試(前期) [A日程][B日程] 大学入学共通テスト	2月17日(月)	

入学試験に関する  
問い合わせ先

〒470-1192 愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪 1 番地 98  
藤田医科大学大学院  
医学研究科 TEL 0562-93-2898  
医療科学研究科 TEL 0562-93-2504  
保健学研究科 TEL 0562-93-9080

URL <https://www.fujita-hu.ac.jp/>  
藤田医科大学  
医学部 TEL 0562-93-2493  
医療科学部・保健衛生学部 TEL 0562-93-9959